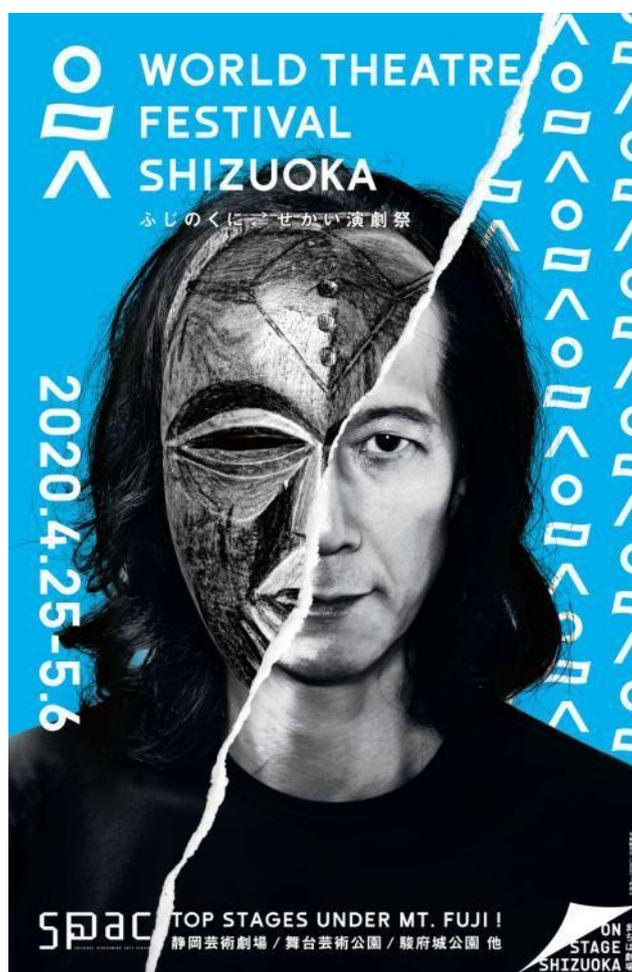


WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA ふじのくににせかい演劇祭 2020

会期：2020年4月25日(土)～5月6日(水・休)

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

<完全版プレスリリース>



ふじのくににせかい演劇祭 2020 ガイドパンフレット/表紙：大高浩一 (SPAC) ©日置真光

[ふじのくににせかい演劇祭 2020]

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター 助成：令和元年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業 ふじのくに芸術祭共催事業

SPAC「ふじのくににせかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC - 静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

世界の演劇シーンをざわつかせる演出家たちが、ゴールデンウィークの静岡に集結！

SPAC-静岡県舞台芸術センターでは、今年もゴールデンウィークに「ふじのくににせかい演劇祭 2020」を開催いたします。“ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通じてダイレクトに繋がっている”というコンセプトのもと、国内外の最先端の舞台芸術を静岡で広く体験していただけるイベントです。

今年は、招聘演出 5 作品、宮城聰演出 SPAC 新作 1 作品の全 6 作品を上演いたします。海外からはフランスのワジディ・ムアウッド、オリヴィエ・ピィ、そしてロシアのキリル・セレブレンニコフなど、世界の演劇シーンのトップランナーが「今」を切り取る話題作・日本初演作を上演。宮城聰は唐十郎の伝説的戯曲を新作野外劇として発表します。

また宮城演出 SPAC 作品『アンティゴネ』を、東京 2020 NIPPON フェスティバル共催プログラムの一環として駿府城公園で上演します。同時開催のストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」にもご注目ください。

■ 「ふじのくににせかい演劇祭」とは

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）では、1999 年に開催された世界の舞台芸術の祭典「第 2 回シアター・オリンピックス」の成功を受けて、2000 年より「Shizuoka 春の芸術祭」を毎年行い、各国から優れた舞台芸術作品を招聘・紹介してきました。SPAC が活動 15 年目を迎えた 2011 年からは、名称を「ふじのくににせかい演劇祭」と改め、新たなスタートを切りました。「ふじのくににせかい演劇祭」という名称には、「ふじのくに（静岡県）と世界は演劇を通して、ダイレクトに繋がっている」というメッセージが込められています。静岡県の文化政策である「ふじのくに芸術回廊」と連携しながら、世界最先端の演劇はもちろん、ダンス、映像、音楽、優れた古典芸能などを招聘し、静岡で世界中のアーティストが出会い、交流する——そんなダイナミックな「ふじのくにと世界の交流（ふじのくににせかい）」を理念としています。

■ SPAC（Shizuoka Performing Arts Center）

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center : SPAC）は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聰が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13 年、全国知事会第 6 回先進政策創造会議により、静岡県の SPAC への取り組みが「先進政策大賞」に選出。18 年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。

● 宮城聰(みやぎ・さとし) SPAC 芸術総監督 プロフィール

1959 年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990 年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007 年 4 月 SPAC 芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017 年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデア』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。2004 年第 3 回朝日舞台芸術賞受賞。2005 年第 2 回アサヒビール芸術賞受賞。2018 年平成 29 年度第 68 回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2019 年 4 月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

巻頭言

SPAC 芸術総監督 宮城聡



いま、どうにも気がかりなことがあります。
「今年、オリパラが終わったら、世の中が一気に“狭量”
になってゆくのではないか??」

狭量な世の中、つまり「自分たちの価値観からハズ
れている」ものをやたらに叩く世の中です。

「狭量」の反対語と言ってもいい「多様性」という
言葉が流行語のように広まるとは、数年前までは想像
できませんでした。そこには、パラリンピックのおか
げ、がかなり働いたように思います。もちろん、多様
性を嫌う発言やその後ろにある古臭い空気に対して、
きちんと声を上げて批判した人たちの努力のおかげも
あるでしょう。

でも僕が心配なのは、こうして「多様性」という言
葉が「おもてだって否定できないこと」として流通し
てゆくいっぽうで、本当に「多様性」を楽しみ、「多
様性」で人生が豊かになったと感じている人はちっと
も増えていないんじゃないか、という点です。

そして「おもてだって否定できないこと」としての
「多様性の尊重」がマスコミなどで目立てば目立つほ
どに、「むしろ自分たち“普通派”は誰からも尊重され
ていないんじゃないか」という不遇感が人々の中で膨ら
んでゆくような気がするのです。

僕は、人間がみな「自分より弱いものを見つけてい
じめようとする生き物」だとは思いません。不遇感が
膨らんでも、そのはけ口として弱者や少数者を攻撃す
ることはためられるものだと思います。

けれど、もし相手が「強者」なら、そのためらいは
不要になりますよね。つまり相手が強者あるいは「勝
ち組」だということにしまえば、良心の歯止めは
機能しなくなります。

「自分は尊重されてない」と感じていると、相手が
(たとえ数の上では少数であっても)「マスコミで取
り上げられている」という理由だけでじゅうぶん「強
者」に見えてきます。

“普通派”の所得が徐々に減っているのは先進国に共
通した状況のようです。一部の人に集中する所得をう
まく再分配してほしいと思いますが、ちっとも進みま
せん。そういう中で不遇感を解決するのは容易なこと
ではありませんね。

ここはひとつ、「日本全体」のスケールで考えるの
ではなく、もっと狭い「一地域」での解決を探ったら
どうだろうかと思えます。所得の再分配は日本全
体の課題ですが、「幸せの再分配」なら地域で取り組
めると思うからです。

人が幸せを感じる要素は、^{とみ}富だけではありませんよ
ね。「前より貧乏になった」と感じていれば子供を産
もうと思わなくなりますが、「前より幸せになった」
と感じたら、あるいは「生きていて楽しい」と感じたら、
そういう世界になら新たな生命を送り出してもいい
と思えてくるのではないのでしょうか。

^{とみ}富以外で人が「幸せ」を感じる機会を、なるべく平
等に、つまり貧富にかかわらず、提供すること。それ
ができた地域は、きっと(狭量ではなく)寛容な地域
となるでしょう。日本の中で珍しくギスギスしていな
い、そんな地域には、きっと住民も増えるでしょう。
そして生まれる子供も増えるのでは?

劇場も演劇祭も、「幸せの再分配」に寄与できると
僕は思っています。

ふじのくににせかい演劇祭 2020 上演全ラインナップ

▶ 会期：2020年4月25日[土]～6日[水・休]

静岡芸術劇場

日本初演 演劇 <<<パリ

▶ 4月25日[土], 26日[日] 各日 12:30

ワジディ・ムアウッド | 『空を飛べたなら』

日本初演 演劇・映画 <<<リオ・デ・ジャネイロ/ブリュッセル

▶ 4月28日[火]19:30, 29日[水・祝]14:30

クリスティアナ・ジャタヒー | 『終わらない旅～われわれのオデッセイ～』

日本初演 音楽劇 <<<アヴィニョン

▶ 5月2日[土]14:00, 3日[日・祝]11:00

オリヴィエ・ピィ | オリヴィエ・ピィのグリム童話

『愛が勝つおはなし ～マレーヌ姫～』

日本初演 演劇 <<<モスクワ

▶ 5月5日[火・祝]14:30, 6日[水・休]13:30

レクチャー&パフォーマンス

キリル・セレブレンニコフ | 『OUTSIDE -レン・ハンに詩に基づく』

舞台芸術公園 野外劇場「有度」

SPAC 新作 演劇 <<<静岡

▶ 4月25日[土], 26日[日], 29日[水・祝] 各日 18:00

唐十郎×宮城聡 | 『おちょこの傘持つメリー・ポピンズ』

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

日本初演 演劇 <<<ジュネーヴ/ルナン

▶ 4月25日[土]21:00, 28日[火]16:30, 29日[水・祝]12:00

オマール・ポラス | 『私のコロンビーヌ』

同時開催

駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

東京 2020 NIPPON フェスティバル共催プログラム ふじのくに野外芸術フェスタ 2020 静岡 宮城聡演出 SPAC公演

演劇 <<<静岡

▶ 5月2日[土]～5日[火・祝] 各日 18:45 開演

『アンティゴネ』

駿府城公園、静岡市役所・葵区役所、常磐公園など静岡市内

▶ 5月2日[土]～5日[火・祝] 各日 11:00～21:30

ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡

日本初演 演劇 <<<パリ

『空を飛べたなら』

4月25日[土]、26日[日] 各日 12:30

会場：静岡芸術劇場

作・演出：ワジディ・ムアワッド

演出助手：ヴァレリー・ネーグル

演出助手（ツアー）：オリアヌヌ・フィシャル

ドラマツルギー：シャルロット・ファルセ

アーティストックコラボレーション：フランソワ・イスメル

歴史についての助言：ナタリー・ゼモン・デイヴィス

音楽：エレニ・カランドルー

出演：ジャラル・アルタウィル、ジュレミー・ガリアナ

ヴィクトール・ド・オリベイラ、レオラ・リヴラン、エレン・グラス

ダリヤ・シェイザフ、ラファエル・タポール、ラファエル・ヴァインシュトゥック

ネリー・ローソン

製作：コリーヌ国立劇場 助成：プレスト国立舞台クワルツ寄付基金

【全席指定】 上演時間：240分（途中休憩あり） ドイツ語、英語、ヘブライ語、アラビア語上演／日本語字幕

※15歳以上推奨

プレトーク：各回、開演25分前より



『空を飛べたなら』 ©Simon Gosselin

ムアワッド演劇の新たな地平、その空に「分断」はあるか。

レバノンに生まれフランス亡命後カナダに渡り、今や世界が認める劇作家・演出家となったワジディ・ムアワッド。2016年パリ・コリーヌ国立劇場芸術監督に就任後の第一作目にしてムアワッド最大のヒット作が、演劇祭のオープニングに登場します。ニューヨークで出会ったユダヤ系ドイツ人青年と、アラブ系アメリカ人女性との禁断の恋。二人は家族の出自の秘密を追い、訪ねたイスラエルでテロ事件に巻き込まれます。駆けつけた家族はそこで「真実」に引き裂かれ…。

ドイツ語・英語・ヘブライ語・アラビア語が次々に飛び交う会話、それはまさに今イスラエルで話されている言葉であり、言語が“友”と“敵”とを隔てる壁でもあることを示しています。深く身を切られるような劇体験、止めどない分断の地の空に放たれる言葉が観る者を震わせる。ムアワッド節が存分に味わえるサスペンスフルな超大作です。

あらすじ

ニューヨークの大学図書館、イスラムの伝記事典を読んでいたワヒダは、ベルリン出身で遺伝学・統計学を学ぶエイタンに話しかけられ、二人は恋に落ちる。ユダヤ人のエイタンは、アラブ人のワヒダとの婚姻を認めてもらうため、両親を呼び「過越祭」の食事をともにするが、敬虔なユダヤ教徒の父は交際を認めない。DNA鑑定で家系の秘密を知ったエイタンは、ワヒダとともに祖母の住むイスラエルへと向かい、爆弾テロに巻き込まれ意識不明に。そこに家族が駆けつけ…。

ワジディ・ムアワッド Wajdi MOUAWAD

劇作家・演出家。1968年レバノン・ベイルート生まれ。8歳で家族とともにフランスへ亡命後、カナダに移住。2000年『沿岸/Littoral』でカナダ総督文学賞（演劇部門）を受賞、この作品にはじまる「約束の血」四部作をアヴィニョン演劇祭で発表し世界にその名を知らしめる。10年SPACで『沿岸』を『頼むから静かに死んでくれ』として上演。また同シリーズが上村聡史の演出により『炎 アンサンディ』『岸 リトラル』として世田谷パブリックシアターで上演され話題となる。16年SPACで『火傷するほど独り』を上演。同年より、現代演劇のみを上演するパリ・コリーヌ国立劇場の芸術監督に就任。戯曲・小説は20カ国語以上に翻訳出版されている。



©Simon Gosselin

SPAC「ふじのくににせいかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

日本初演 演劇・映画 <<<リオ・デ・ジャネイロ／ブリュッセル

『終わらない旅 ～われわれのオデッセイ～』

4月28日[火] 19:30, 29日[水・祝] 14:30

会場：静岡芸術劇場

ステージング・演出・ドラマツルギー：クリスティアナ・ジャタヒー

アーティストックアドバイザー・セットデザイン・照明：トーマス・ワルグラウヴ

出演：コリーナ・サバス、エミリー・フランコ、イヴァン・ティルティオー

ジョヴィアル・ムベンガ、レオン＝ダヴィ・サラザール

マロイネ・アミミ、メリーナ・マルタン、ヘナタ・アルディ

ヴィートル・アラウジョ、ヤラ・クタイシュ ほか

製作：ワロニー＝ブリュッセル国立劇場、SESC サンパウル

共同製作：ルール・トリエンナーレ、コメディ・ド・ジュネーヴ

オデオン座、サン・ルイス市立劇場、アヴィニオン演劇祭

ル・マイヨン ストラスブール劇場

スウェーデン国立劇場、テンポラーダ アルタ

[全席指定] 上演時間：120分 多言語上演／日本語・英語字幕

プレトーク：各回、開演25分前より



『終わらない旅 ～われわれのオデッセイ～』©Marcel Olipiani

3000年前のフィクションは、アクチュアル？

英雄オデュッセウスの苦難の旅を描いた『オデュッセイア』。ブラジル出身の演出家・映画監督クリスティアナ・ジャタヒーは、映像とライブパフォーマンスをその場でリミックスし、この古代ギリシアの長編叙事詩を今世界で起きている現実へと接続させます。パレスチナ、レバノン、ギリシャ、南アフリカ…、彼女が向けたカメラには各地で“オデッセイ／長い旅”を余儀なくされた人々が映り、叙事詩の一節とともに体験を語り出します。と同時に、客席の中に紛れた「人々」の存在が、それらをまさに隣人のものとして私たちに体験させ、全てはシームレスにつながるのです。映画と演劇、フィクションとリアル、常に新たな表現の領域を求め境界線を旅するジャタヒーの注目作です。

あらすじ

古代ギリシアの詩人ホメロスによる『オデュッセイア』は、イタケの王オデュッセウスがトロイア戦争に駆り出され、帰還するまでの長い苦難の旅を描いた長編叙事詩。王の留守中、財産を食い尽くす者たちから屋敷を守ろうとする妃ペネロペ、そして息子テレマコス、女神アテネに導かれて父を探す旅に出る。侵略者から故郷を守ろうとする人々、安全な土地を探して国境を越える人々。抗うことのできない“旅”…、これは私たちのオデッセイ。

クリスティアナ・ジャタヒー Christiane JATAHY

リオ・デ・ジャネイロ生まれ。作家、演出家、映画監督。大学で演劇とジャーナリズム、大学院にて芸術と哲学を専攻。2003年より創作を通じて様々な芸術分野との対話を続け、現実とフィクション、俳優とキャラクター、演劇とオーディオヴィジュアルの関係に着目。ドキュメンタリーとパフォーマンス、ライブシネマを融合した作品を多く手掛け、世界中で成功を収めている。17年には、欧州の主要なフェスティバルや劇場から招聘を受け、コメディ・フランセーズでは、ジャン・ルノワールの映画『ゲームの規則』から着想を得た作品を発表。18年、ホメロスの『オデュッセイア』を題材にした『イタカ (Ithaca)』をパリ・オデオン座にて発表し好評を博した。現在、オデオン座、ル・サン・キャトル、ワロニー＝ブリュッセル国立劇場のアソシエイトアーティストとして活躍している。



© Estelle Valente

SPAC「ふじのくにこせかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC - 静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel : 054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail : uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

日本初演 音楽劇<<<アヴィニョン

オリヴィエ・ピのグリム童話

『愛が勝つおはなし ～マレーヌ姫～』

5月2日[土] 14:00, 3日[日・祝] 11:00

会場：静岡芸術劇場

作・演出・音楽：オリヴィエ・ピ

出演：ダミアン・ピグルダン、クレマンティーヌ・ブルゴワン
ピエール・ルボン、フランソワ・オベ、アントニ・シコブーロス

製作：アヴィニョン演劇祭

共同製作：リモージュ歌劇場、ローザンヌ歌劇場

南アキテーヌ国立舞台、ジョルジュ・レイグ劇場

協力：オデオン座

[全席指定] 上演時間：60分 フランス語上演/日本語字幕

プレトーク：各回、開演 25 分前より

アーティストトーク：5/2[土]終演後

©出演者と子どもたちとの交流プログラム：5/3[日]終演後（定員 20 名、高校生以下、要申込・無料）



『愛が勝つおはなし ～マレーヌ姫～』

©Christophe Raynaud de Lage / Festival d'Avignon

魅惑的なグリム童話の世界を歌で紡ぐオペレッタ

演出家・劇作家として、またアヴィニョン演劇祭のディレクターとしても活躍するオリヴィエ・ピがグリム童話を戯曲化し新たな演出で贈る「オリヴィエ・ピのグリム童話」シリーズ。これまでも SPAC で度々上演され、宮城演出版も好評を博した同シリーズの待望の最新作は、全編を歌で紡ぐオペレッタ。美しく快活なマレーヌ姫は隣国の王子と惹かれあうも、これに反対する王は姫を 7 年間、塔の中にとじこめてしまいます。やっとの思いで塔からでた姫の前に広がっていたのは、争いで荒れはてた大地…。愛と行動力にあふれる姫の姿は、現代に生きる私たちに希望を与えてくれます。ノスタルジックなメロディーが音楽家でもある俳優たちの豊かな歌唱とピアノ、チェロの音色に乗り、遊び心あふれる舞台美術はドラマチックに物語をはこびます。オリヴィエ・ピの演劇の魔法を、大人も子どもも余すところなく味わえる作品です。

あらすじ

マレーヌ姫はとなりの国の王子とひかれあうが、父である王は国をより豊かにするため、となりの国との戦争をおこなうと宣言する。王子と結ばればきっと平和がおとずれる！そんな願いもむなしく、王がすすめる結婚を拒んだマレーヌ姫は、塔の中に閉じ込められてしまう。7 年後、やっとの思いで外へ出た姫の前に広がっていたのは、戦争で荒れ果てた大地だった。王子への揺るがぬ愛は、姫を再び運命の人の前へと運び…。

オリヴィエ・ピ Olivier PY

劇作家、演出家、俳優。1965 年、南仏グラス生まれ。87 年にパリ国立高等演劇学校（コンセルヴァトワール）に入学、並行してカトリック学院で神学と哲学を学ぶ。95 年、アヴィニョン演劇祭で上演時間 24 時間という異例の作品『常夜灯一果てしない物語』の 7 日間連続上演を敢行し、一躍脚光を浴びる。98 年から 2007 年までオルレアン国立演劇センターの芸術監督、同年 3 月から 12 年までパリ・オデオン座の芸術総監督を務める。13 年、アヴィニョン演劇祭のディレクターに就任。SPAC ではこれまでに『イリュージョン・コミック—舞台は夢』、『若き俳優への手紙』（08 年）、「グリム童話」3 部作（09 年）、「オリヴィエ・ピの『<完全版>ロミオとジュリエット』（12 年）、ピ自身によるシャンソンライブ『ミス・ナイフ、オリヴィエ・ピを歌う』（14 年）、新演出版『グリム童話～少女と悪魔と風車小屋～』（16 年）を上演。現代フランスを代表する劇作家・演出家のひとり。



©Christophe Raynaud de Lage

SPAC「ふじのくににせいかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC - 静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel : 054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail : uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

日本初演 演劇 <<<モスクワ

レクチャー&パフォーマンス

『OUTSIDE -レン・ハン』の詩に基づく』

5月5日[火・祝] 14:30, 6日[水・休] 13:30

会場：静岡芸術劇場

演出・美術・ドラマツルギー：キリル・セレブレンニコフ

振付：イワン・エステグネーエフ、エフゲニー・クラージェン

音楽：イリヤ・デムツキー

出演：オーディン・ランド・パイロン、アレクセイ・ブイコフ

ヤン・グヴァ、ゲオルギー・クドレンコ

ニキータ・ククシュキン、ユリヤ・ロボダ、ダニール・オルロフ

アンドレイ・ペトルシェンコフ、アンドレイ・ポリャコフ

エフゲニー・ロマンツォフ、アナスタシヤ・ラチコフ

エフゲニー・サンガジエフ、イーゴリ・シャロイコ

製作：M.ART (モダン・アートライフ財団) 共同製作：アヴィニョン演劇祭

協力：ゴーゴリ・センター



『OUTSIDE -レン・ハン』の詩に基づく』 ©Ira Polyarnaya

[全席指定] 上演時間：150分 (プレレクチャーを含む) ロシア語上演/日本語字幕

レクチャー：「写真家レン・ハンが越えようとした境界」

※プレレクチャーをお聴きいただいた方のみ本公演をご覧いただけます。 ※18歳以上推奨。

写真家レン・ハンへの大いなるオマージュ

今最も注目される演出家・映画監督キリル・セレブレンニコフが、ロシア政府により軟禁状態に置かれた自らの代わり“外”の世界へと放った衝撃の最新作。2018年カンヌ映画祭での“不在”が図らずも話題をさらった彼を虜にしたのは、写真家レン・ハンが遺した数々の詩でした。「性」を扱うことがタブーとされる中国で、ポエティックな美しさを纏う人間本来の姿を撮り続け、29歳で自らこの世を去ったレン。彼が日々綴った愛と死、性と孤独への言葉に、眩いほどの音楽とダンス、そして権力への抵抗が乱反射します。共鳴しあう2人のアーティストを追い詰めた、最高にピュアでナイーブ、何より圧倒的な「美」がここに溢れ出します。

あらすじ

とあるアパートの一室に閉じ込められた男。窓の外から差し込む光によって男の影が壁に映し出されている。その影は、自らこの世を去ったレン・ハンへと姿を変え、男を外の世界へと誘う。明滅するイメージのように現れる巨大な尻と象のような脚を持つダンサー。ロバートと名乗るアメリカ人写真家との出会い、そしてレンの死を否定し続ける母親の存在。度重なる弾圧と葛藤しながらも母国と家族を愛し、大空へと飛び立ったレンが導く先には一。

キリル・セレブレンニコフ Kirill SEREBRENNIKOV

演出家、映画監督。モスクワ芸術座、ラトビア国立劇場などで演出を手掛け、2012年にゴーゴリ・センター芸術監督に就任。マリンスキー劇場などロシアを代表する劇場に加え、欧州の主要な劇場でオペラやバレエも演出している。舞台作品は、ウィーン芸術週間、アヴィニョン演劇祭などでも上演され、国際的に高い評価を得ている。17年にポリショイ・バレエで初演された『ヌレエフ』が、バレエ界最高峰のブノワ賞にて、振付・作曲・舞台美術・男性ダンサーの主要4部門を独占。映画監督としても、ローマ国際映画祭、ロカルノ国際映画祭での受賞のほか、近年ではヴェネチア国際映画祭、カンヌ国際映画祭にも出品し注目を集めている。18年、フランス芸術文化勲章の最高章コマンドゥール受章。19年アヴィニョン演劇祭で『OUTSIDE』を上演し、20年ワールドツアーを予定。



レン・ハン (任航) Ren HANG <https://instagram.com/renhangrenhang/>

1987年中国生まれ。北京を拠点に活動した、独学の詩人で写真家。しばしば禁止を受ける彼の繊細な作品は、エロティック、距離、ユーモアが混在する都市や自然を背景にした身体を特徴としている。彼の詩的なイメージは、その自由で偉大な感覚で世界中に名を知らしめる。2017年、29歳で自らの命を絶った。

SPAC「ふじのくににせいかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

SPAC 新作 演劇 <<<静岡

『おちょこの傘持つメリー・ポピンズ』

4月25日[土], 26日[日], 29日[水・祝] 各日 18:00

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

演出：宮城聡 作：唐十郎

美術：カミイケタクヤ

出演：SPAC/泉陽二、奥野晃士、春日井一平、片岡佐知子、河村若菜、木内琴子
鈴木陽代、関根淳子、たきいみき、ながいさやこ、牧山祐大、宮下泰幸 (50音順)

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター

[全席指定] 未定 (120分以内) 日本語上演/英語字幕

アングラ熱は止まらない！

唐十郎×宮城聡、待望の新作野外劇を見よ！！

「アングラ四天王」のひとりとして、1960年代以降の小劇場演劇をリードしてきた劇作家・演出家の唐十郎。1976年に状況劇場で初演された秘蔵的一幕劇を、宮城聡が野外劇として今甦らせませす。さびれた傘屋を営む若僧・おちょこと訳アリの男・檜垣の前に、メリー・ポピンズさながら突如として現れた謎の客・石川カナ。彼女は天使か、はたまた狂犬か――。70年代に世間を騒がせた日本歌謡界の一大スキャンダルに材を取り、ウソとマコトがつむじ風のごとく交錯する、切ない犬死にの哀歌。唐十郎の“傘寿”に捧ぐ、宮城聡もう一つの真骨頂をお見逃しなく！

あらすじ

相愛橋のある横丁で傘屋を営む「おちょこ」は修理を頼みに来た客の「石川カナ」に恋をした。いつか彼女に「メリー・ポピンズの傘を持たせる」という夢を描きながらロマンチックな気分ひたるおちょこだが、瀕死の状態のところをおちょこに助けられて以来、傘屋に居候している檜垣は、カナがかつて人気歌手の子どもを産んだ挙句にショッキングな出来事を引き起こした張本人だと気づく。カナをめぐる次々と湧き上がる謎。おちょこと檜垣を巻き込みながら物語は混乱の中へ――

宮城 聡 MIYAGI Satoshi

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。17年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『女王メデア』『マハーバーラタ』『パール・ギュント』など。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。



©加藤孝

唐十郎 KARA Juro

1940年東京生まれ。明治大学文学部演劇学科卒業。63年「劇団状況劇場」を旗揚げ。実験精神と独自性に富む街頭での野外劇を試みるなど、小劇場運動の先陣を切った。67年新宿花園神社に初めて紅 TENT を建て『腰巻お仙』を上演。以後TENT公演を中心に活動、海外公演も行う。70年『少女仮面』で岸田國士戯曲賞、82年『佐川君からの手紙』で芥川賞など受賞歴多数。88年「劇団唐組」を結成。劇団を率い、現在までほぼ年2回のペースで新作上演を続けている。また、ドラマ、CM出演等、俳優としての活躍は演劇、映画にとどまらない。

SPAC「ふじのくにごせかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp



©行貝チエ

日本初演 演劇 <<<ジュネーヴ／ルナン

『私のコロンビーヌ』

4月25日[土]21:00, 28日[火]16:30, 29日[水・祝]12:00

会場：舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

演出・通訳・舞台美術・衣裳：オマール・ポラス

作：ファブリス・メルキオ 演出助手：ドメニコ・カルリ
外部からの視線：アレクサンドル・エテーヴ、フィリップ・カール

作曲：エマニュエル・ナッペイ

音楽監督・ピアノ：セドリック・ベシア

振付コラボレーション：伊藤郁女

製作：アム・ストラム・グラム劇場、TKMクレベール＝メロー劇場

[全席指定] 上演時間：60分 フランス語上演／日本語字幕



『私のコロンビーヌ』© Ariane Catton Balabeau

プレトーク：各回、開演 25 分前より

◎オマール・ポラスによるワークショップ：4/27[月]13:00～18:00（定員 20 名・高校生以上・経験不問、参加費 1,000 円[要予約]）

舞台の魔術師、オマール[Omar]による愛[amor]の賛歌！

1999年の『血の婚礼』以来、度々SPACに登場し、奇抜無類の舞台にファンも多い俳優・演出家のオマール・ポラスが、その半生を自ら演じ語る一人芝居。コロンビアの貧しい農家に生まれたオマール少年は、本屋の片隅でニーチェを読み、店主が語る芸術の街パリに憧れを抱くようになります。両親の反対を押し切って海を渡り、パリの地下鉄で無言の人形劇にいそしみ日銭を稼ぐ日々…。恋多きオマール！出会いのオマール！演劇に導かれた人生、その視線は川を遡上するように再び過去へと向かいます。体からにじみ出るラテンのリズムと逆境に屈しない明るさ、人生の機微を变幻自在に演じ分ける卓越した名人芸に、誰もが幸せのヒントをもらえる、オマールの人生賛歌です。

あらすじ

三々五々、観客が集まって来る劇場。この物語の主人公であるオマール・ポラスはそんな客に案内人のように話し掛けながら、その実、もう物語の支配者として世界の中心にいる。コロンビアの貧しい農家に生まれたオマール少年は、「ペンよりも鎌を持って」という父と、教育熱心な母に育てられる。どうにか学校を卒業したものの、何をすればよいのか分からない。誘われるまま入隊した軍も長続きしなかった。そんなある日、街の本屋で偶然手にしたニーチェの著作に深い感銘を受ける。本を買うお金もなく、本屋に通って読むうち店主に気に入られ、パリの文化サロンの話を聞き、憧れを抱くようになる。そして、自らの人生を大きく動かす決断をするのだった。

オマール・ポラス Omar PORRAS

1963年コロンビア生まれ。スイスを拠点に活動する演出家・俳優。南米各地でダンスや演劇を学んだ後、20歳で渡仏。地下鉄で人形劇を上演しながら生活費を稼ぎ、ルコック演劇学校とパリ第三大学演劇科に通う。90年スイス・ジュネーヴ郊外の廃屋をアトリエに改装し「テアトロ・マランドロ」を創立。バリ島、インド、日本をはじめとするアジア演劇の手法やコメディ・デラルテなど多様な演技法を取り込み、独自の演劇スタイルを確立する。静岡での公演は99年シアター・オリムピクスでの『血の婚礼』以来、今回で12回目となる。SPACとの共同制作で『ドン・ファン』（09年）、『ロミオとジュリエット』（12年）を演出し、SPAC俳優陣からの信頼も厚い。その他の代表作に『ユビュ王』、『貴婦人故郷に帰る』など。近年はオペラの演出も多く手がけている。07年コロンビア国家功労勲章を受章。14年スイス最高の演劇賞であるハンス・ラインハルト・リング賞を受賞。



SPAC「ふじのくにこせかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC・静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008（舞台芸術公園）／ E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

同時開催

演劇 <<<静岡

東京 2020 NIPPON フェスティバル共催プログラム

ふじのくに野外芸術フェスタ 2020 静岡 宮城聰演出 SPAC公演

『アンティゴネ』

5月2日[土]、3日[日・祝]、4日[月・祝]、5日[火・休]

各日 18:45 開演

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

宮城聰×SPAC の話題作が、静岡・駿府城公園に凱旋！

宮城聰演出による SPAC の代表作『アンティゴネ』は、2017年仏アヴィニョン演劇祭、2019年ニューヨーク公演での絶賛を経て、オリンピックイヤーの今年、東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラムとして、静岡市の駿府城公園に凱旋します。

主催：ふじのくに野外芸術フェスタ実行委員会

共催：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、静岡県文化プログラム推進委員会、静岡市

※ 詳細は別紙『アンティゴネ』プレスリリースをご覧ください。



『アンティゴネ』アヴィニョン演劇祭公演
©Christophe Raynaud de Lage / Festival d'Avignon

ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡

静岡市「まちは劇場」プロジェクト

5月2日[土]、3日[日・祝]、4日[月・祝]、5日[火・祝]

各日 11:00~21:30

会場：駿府城公園、静岡市役所・葵区役所、常磐公園など静岡市内

予約不要・参加無料 ※一部予約制の場合あり



静岡でしか見られない。静岡でしかありえない。

演劇・ダンスでまちを劇場にする、日本のストリートシアターフェス、ここからはじまる！

【出演予定アーティスト】*第一弾発表

東京デスロック / 柿喰う客 / 白井剛×森川祐護 (Polygon Head) / ホナガヨウコ
渡邊尚 (頭と口) × kajii / 劇団子供巨人 / 劇団 短距離男道ミサイル / 鳥公園
ワワフラミンゴ / 壱劇屋 / コトリ会議 / 太めパフォーマンス / 不思議少年
Mt.Fuji / 吉光清隆 / Collectif Protocole フランス / I Moment 韓国 ...and more!

※ 詳細は別紙「ストレンジシード」プレスリリースをご覧ください。

プログラムディレクター：ウォーリー木下 / イラスト：しりあがり寿

主催：静岡市 共催：SPAC-静岡県舞台芸術センター

SPAC「ふじのくにごせかい演劇祭 2020」についてのお問い合わせならびに取材のご希望は

SPAC - 静岡県舞台芸術センター 広報担当：内田・坂本 までお問い合わせ下さい。

Tel：054-208-4008 (舞台芸術公園) / E-mail：uchida@spac.or.jp sakamoto@spac.or.jp

そのほかの関連企画

◎広場トーク

5月4日[月・祝] 16:30~17:30 会場：フェスティバル garden

駿府城公園の開放的な空気のもと、宮城聡とアーティスト・論客たちが自由に語り合います。

パネリスト：オリヴィエ・ピイ（劇作家・演出家）、宮城聡（SPAC 芸術総監督）

司会：中井美穂（アナウンサー） ※この他の登壇者やトークテーマは、決定次第、特設サイトにて発表します。

予約不要・無料

◎しりあがり寿 presents ずらナイト

5月2日[土]~5日[火・祝] 各日 19:00~24:00

会場：ガーデンカフェ・ライフタイム

入場無料（要1ドリンクオーダー）

静岡出身の漫画家・しりあがり寿がホストとなり、ゲストと夜な夜な繰り広げる脱力系ライブバー。

主催：静岡市 協力：徳川慶喜公屋敷跡 浮月楼



©しりあがり寿

◎開幕式

4月25日[土] 11:45~12:00 静岡芸術劇場カフェ・シンデレラにて

◎お茶摘み体験をしよう！ in 舞台芸術公園

5月2日[土] 9:30~12:00 ※雨天中止

静岡舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」前 集合

参加費：一般 700円、高校生以下 500円、未就学児無料 要予約

◎フェスティバル bar（舞台芸術公園）

◎フェスティバル garden（駿府城公園）

観客とアーティストの出会いの場。演劇祭のコミュニティスペースです。

◎フェスティバル bar

日時：4月25日[土]、26日[日]、29日[水・祝] 各日 16:30~22:00

会場：舞台芸術公園「カチカチ山」

◎フェスティバル garden

日時：5月2日[土]、3日[日・祝]、4日[月・祝]、5日[火・祝] 各日 11:00~18:30

会場：駿府城公園 東御門前広場

プロデューサー：スノドカフェ代表 柚木康裕



◎みんなの nedoco プロジェクト

毎年大好評！ まちの集会所やお寺が期間限定のゲストハウス「nedoco（ネドコ）」に。

日帰りでは味わえないディープな静岡を体験していただける滞在型イベントです。

◎観光案内所&おみやげ処 しずおかのひみつ

地元スタッフが観光スポットやお土産物をご紹介します。静岡芸術劇場にて。公演がある日の上演前後にオープン。

企画・運営：シズオカオーケストラ

チケット情報

SPAC の会会員先行予約開始 3月1日[日]10:00 / 一般前売開始 3月8日[日]10:00

演劇祭パスポート 限定数発売

演劇祭をお得に楽しみたい方におすすめのパスポート。

一般：14,000円 / SPAC の会会員：12,000円

※パスポートのご利用は、1演目につき1回、ご本人様に限らせていただきます。※パスポート購入後、ご観劇希望の演目を各公演前日までに
お電話もしくは窓口にてご予約ください（ご希望の公演が満席の場合はご予約いただけません。どうぞお早めにお申し込みください）。

一般 4,200円

ペア割引 3,700円（2名様で1枚につき）

グループ割引 3,300円（3名様以上で1枚につき）

ゆうゆう割引 3,500円 [満60歳以上の方] ※公演当日、年齢のわかる身分証をご提示ください。

学割 2,000円 [大学生・専門学校生]

1,000円 [高校生以下] ※公演当日、学生証をご提示ください。

障がい者割引 2,900円 [障害者手帳をお持ちの方] ※付添の方（1名様）は無料。

※各種割引を組み合わせのご利用はできません。 ※割引をご利用の際は、必ずご予約時にお知らせください。
※全演目パスポート、障がい者割引、10名様以上のご予約については、電話・窓口のみでのお取り扱いになります。

チケット購入方法

電話予約 SPAC チケットセンター TEL：054-202-3399（受付時間 10:00～18:00/休養日を除く）

ウェブ予約 [https:// festival-shizuoka.jp](https://festival-shizuoka.jp)

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター（受付時間 10:00～18:00/休養日を除く）

セブン-イレブンでの販売 店内のマルチコピー機をご利用ください。

※チケットのご予約受付は公演前日の18時までとなります。

当日券 残席がある場合のみ、開演1時間前より各公演会場の受付で販売します。

※当日券の有無は、公演当日にお電話もしくは演劇祭特設サイトでお確かめください。

アクセス

※ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお越しください。

静岡芸術劇場（静岡市駿河区東静岡2丁目3-1）

JR「東静岡駅」南口から徒歩約5分。

電車 ◎最寄りのJR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線（沼津・熱海方面、上り）で約3分。

※1時間に5～6本、10～15分間隔で運行しています。

◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約12分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。

※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと1時間100円になります。

舞台芸術公園（静岡市駿河区平沢 100-1）

- バス** 無料チャーターバスをご利用ください。
※舞台芸術公園バスロータリーから各劇場へは徒歩 5～10 分です。
- 自家用車** ◎東名高速道路清水 IC から車で約 30 分、静岡 IC から約 30 分、日本平久能山スマート IC から 15 分。
静清バイパス千代田上土 IC から約 25 分。
◎日本平動物園より日本平方面へ 1.8 キロ先、左手の舞台芸術公園内の駐車場をご利用ください。
- お願い** 舞台芸術公園内の駐車場は台数に限りがございます。自家用車でお越しのお客様は、
グランシップ一般駐車場等に駐車の上、無料チャーターバスのご利用をおすすめいたします。

駿府城公園（静岡市葵区駿府城公園 1-1）

- 電車** ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 20 分。
◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 15 分。
- バス** ◎しずてつジャストライン「市民文化会館入口」停留所下車、徒歩約 8 分。
※JR「静岡駅」北口 5 番または 6 番乗場から約 7 分（運賃 100 円、5～10 分間隔で運行しています）
- 自家用車** ◎「静岡市民文化会館前駐車場」（地下駐車場・有料）及び周辺駐車場をご利用ください。

静岡市役所・葵区役所（静岡市葵区追手町 5-1）

- 電車** ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 20 分。
◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約 15 分。

ガーデンカフェ・ライフタイム（静岡市葵区紺屋町 11-1）

- 電車** ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約 3 分。

お問い合わせ

SPAC チケットセンター **054-202-3399**（10:00～18:00／休業日を除く）

◆「ふじのくににせかい演劇祭 2020」の最新情報は・・・
プレスリリース、SPAC 公式サイト、演劇祭 2020 特設サイトにて、随時お知らせいたします。

SPAC 公式サイト <https://spac.or.jp>

演劇祭特設サイト <https://festival-shizuoka.jp>

SPAC - 静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡 2 丁目 3-1

TEL：054-203-5730（静岡芸術劇場） FAX：054-203-5732

<https://www.spac.or.jp> E-mail：mail@spac.or.jp

広報担当：内田稔子(uchida@spac.or.jp) 坂本彩子(sakamoto@spac.or.jp)

計見葵(keimi@spac.or.jp) 西村藍(nishimura@spac.or.jp)